



新生本町が大にぎわい

12～14日の3日間、高田本町はたくさんの人出で賑わいました。15回目を数える「城下町高田花ロード」です。160点もの作品、そして、フラメンコ、花屏風、刺繍、お花の迷路など、市民の目を楽しませるたくさんのお出し物でいっぱいでした。このほかにも、民家の庭を開放するオープンガーデンがそこかしこにあり、日頃の手入れの成果を披露していました。

このイベントの特徴は、市内一円の市民と、地元本町通りのお店が競い合って出品していること。とかく外部からの出品や出前に頼りがちなイベントが多い中で、市民の手作り感あふれる催しです。

2つの核になる施設がオープンして初めての「花ロード」でしたが、これを機に街中のにぎわいが増すことを願わずにはられません。



く、地方交付税削減のあたりを受けたい形です。上越市議会から代表の一人として出ている橋爪議員は、「削減により職員の生活に脅かし、地域経済にマイナスの影響を及ぼす」として、削減のあたりを受けたい形です。

消防士の給与も大幅削減

地方交付税削減のあおり受け

橋爪議員、消防事務組合議会で減額に反対

7日、上越市役所内で「上越地域消防事務組合定例議会」が行われ、この議会は、上越市と妙高市が消防に関して合同で事業を行っていることから、双方の市議会議員、副市長などで構成しているものです。今回の議会では、消防士などの職員の給与削減が提案されました。組合には、288名の職員がいますが、本年10月から来年3月まで、一人当たり約22万円(共済費含む)の給与を削減する提案です。組合の職員給与は上越市職員の給与の仕組みが準用されることになっていきます。「国の要請に基づいて職員人件費を減額したい」とのことでしたが、消防組合には、国が直接給与削減を要請した事実はなく、地方交付税削減のあたりを受けたい形です。

南葉高原キャンプ場では「秋の感謝デー」



幻想的な日本海が一望のキャンプ場からの眺め

13日には、南葉高原キャンプ場の「秋の感謝デー」が行われました。

前日の雨も上がり、透き通るような秋晴れの下、ニジマスの釣り堀、山菜の販売などでにぎわいました。予想を超えるたくさんの人出で、用意した無料サービスのきのこ汁も、午前中の早いうちに底をつくほどの人気でした。また、キャンプ場を利用した婚活イベントも行われ、若いカップルが幾組も誕生?したようです。

スの影響を与えること、職員の理解を得る努力が十分されていない中での提案であること」を指摘して反対しました。憲法28条では労働者の団結権を認めています。警察職員とともに52条5項では、警察職員とともに消防職員の団結権を禁止していません。つまり、消防職員は、自分の給与に対してモノを言うことができないうた中の給与削減であるだけに、批判は免れません。なお、ILO(国際労働機関)は、日本政府に対して消防職員に団結権を付与するよう求めています。また、県内の19の消防本部中、削減を決めたところは7本部だけで、未定が7本部もあります。また、削減しない、あるいは削減しない方向で検討中のところが5本部にも及んでいます。

日本共産党上越市議員団ニュース

No. 382 2013年10月20日

連絡先
橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)

日本共産党 議員団 議会報告会

入場無料 お誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。

10月29日(火)
午後7:00～8:30
(土橋)
上越市市民プラザ
第4会議室

11月9日(土)
午後7:00～8:30
板倉区
コミュニティプラザ
市民活動室(3階)